



在仏日本人会 会報 N°321 2026年 9月・10月号

JOURNAL JAPON

補習校
だより

一緒に育てよう日本語の木



あの暑さも懐かしく思える毎日ですが、今年度も新入生を迎え、ミニ入学式を行いました。20年前に生徒数40名程でスタートしたパリ日本語補習校ですが、その間、生徒達の努力は当然ですが、補習校運営の為に協力頂きました方々に感謝申し上げます。

教室をお借りしているサンフランソワ校の校長先生からは生徒達の行儀の良さは素晴らしいとお褒めの言葉を頂いており、日本語の勉強、そして日本の文化、習慣等も学んでいる成果とっております。

この補習校で出会った仲間達といつまでも一緒に学び続けて欲しいと願っております。

校長 飯田 隆一



人との付き合いの中で、挨拶はとても大事です。授業の始めと終わりにも号令をかけています。みんなで気持ちを合わせ、「さあ始めるぞ。」と自分に気合いも入ります。

教室では「です、ます」を付けた丁寧な言葉を心がけています。家庭内では敬語を使う機会がありませんから、補習校の中で使って身に付けてほしいと思っています。

新出漢字の学習の時に、その漢字を含む熟語も一緒に学習しています。漢字の意味を覚えるのと同時に語彙も増やしてほしいです。語彙が豊かになれば、表現にも理解にも役立ちます。最小限の言葉でも何とか伝えられるかもしれませんが、よりたくさんの言葉を知っていれば、より豊かに表現でき、うまく相手に伝えられるでしょう。相手の言っていることもよく理解できます。

言語を一つ習得すると世界が一つ増えると聞いたことがあります。言語の学習は文化に触れることであります。知識も増えるし、友達も増やせます。

人生を豊かにし、たくさんの可能性を持つために、言語の習得は大きな意味があります。難しいけれど、少しずつ進めていけば、より広い世界が見え、新しい考え方に触れられると思います。一緒に学べる仲間がいると、楽しく勉強できます。

廣重 幸美

(次ページにつづく)

【着任者向け】フランスでの新生活を応援!

Welcomeセミナー
10/8(木) 10-12時

要予約 ZOOM会議



❖秋のイベント開催のお知らせ❖

和菓子教室 チーズ教室 マスタード教室 など

詳細はQRコードをアクセスください

【帰国者向け】ご帰国まで流れ、免税、ワイン輸送など

引越しセミナー
10/13(火) 10-12時

要予約 ZOOM会議

国内・国際引越し・事務所移転

至れり尽くせりのお引越
日本トランセユーロ
transeuro.jp☎ 01-4058-1000
✉ sales@transeuro.jp



補習校では、小学1年生～中学3年生までの内容を、6歳～18歳の子供達が学んでいます。

低学年では、授業と宿題、日本語学習のいいリズムを作ることが肝要。楽しみながら語彙を増やし、字の読み書きの基本を身につけます。中学年では、時々押し寄せる漢字の高波を乗り越えながら、日本語を通して、日本も学んでいきます。

高学年～中学では、子供達の年齢は教科書年齢を上回っていますから、いろいろな題材に対し、自分の考えを述べたり、フランスと比べたり、、、と学習も広がります。

バカンスの時に 私は作文の宿題を出して、子供達は自分の経験や思いを書いてくれます。ある時、補習校から日本のリセに転校し、日本でBacを終えた子から、メールが届きました。

「実は、先生が何年か前に出してくれた『10年後の私へ』と言う課題の作文をたまたま見つけて読んだら、そこには、今の私にとって大事な思いが書いてありました。(続く)」

フランスの大学に進むか迷っていた彼女は、その作文で自分が本当にやりたいことを確信し、日本に残ってその道に進むことを決めたそうです。

21年目を迎えた補習校。子供達にとって、日本語の母校となるように、自分の「日本語の木」を豊かに育てていきましょう。

ワイルド令子



補習校では、日本の国語の教科書に沿って授業を進めています。教科書では、漢字の学習はもちろん、物語、詩、説明文を読み、文法、ことわざ、慣用句についても勉強します。文章を書く課題ではテーマがあり、それをもとに書いてもらいます。

たとえば、3年生下では、「お気に入りの場所、教えます」というテーマで、お気に入りの場所をクラスみんなに紹介してもらいます。2年生下では、物語を書いてもらいます。ねずみが出てくる物語です。4年生上では、グループで新聞を作ってもらいます。

普段、話すことのないクラスメートと仲良くなる機会です。1年生下では、友達にインタビューをして、「いまいちばんたのしいこと」を聞いてもらい、文にし、それを本人に代わって発表してもらいます。

フランスに住んでいると、日本語の本を読む機会がありません。そのため教科書で触れるお話や説明文は貴重です。私は小学生時代、教科書で読んだお話が忘れられなくてずっと探していました。最近、古本屋で見つけました。

それを読んだとき、あのときに戻った気がしました。みんなにも教科書の勉強とともに、その中でのよい出会いがあるといいなと思います。

浜田 喜代香



言語の習得に近道はなく、「継続は力なり」に尽きると思います。クラスメートと一緒に学習することで、その継続の道が、少し緩やかに、より楽しいものになっていくのだと感じます。

得意なことや性格は、それぞれ違います。そんな子たちが同じ教室で、助け合いながら授業を受けています。お互いを理解し、受け入れていく中で、次第に週1回の授業が楽しみになってきたという子は多いと思います。

基礎・基本の定着のためには、授業で学んだことの復習となる音読、漢字練習、作文などの宿題に地道に取り組むことが必要です。家庭で日本語を学習する習慣を身につけるためには、保護者の皆様のサポートがとても大切です。

感動し、目頭が熱くなることもよくあります。授業後、その嬉しい成長を保護者の皆様と共に確認し、喜び合うとき、最高にハッピーな気持ちになります。

大変な時は支え合い、楽しい時は分かち合う。継続の道を、一緒に歩きましょう。

西岡 緑



補習校の一番いい点は、無理なく続けられる点です。

授業は長すぎず、宿題も多すぎません。「読む・理解する・書く」に重点を置いています。教科書の音読、言葉や漢字の理解、文章や漢字の書き方などです。将来日本で生活したり日本人とかかわったりしていくのに困らない日本語はもちろん、教科書の物語などを通じて、日本の習慣や文化についても学べます。

無理なく続けられることは、学習そのものだけでなく、「続ける力」を育てることにもつながります。勉強に限らず、大人になっても様々な面で必要な力ですね。

また、日本という共通点のある仲間ができ、毎週会うのが楽しく、それが補習校に通い続けるモチベーションにつながっている子どもも多くいます。何か話題を持ちかけると、子どもどうして話し合いを始めたりします。

そして、家で過ごす方も日本語を身に付けるのには重要です。

例えば、補習校で学んだ言葉を家で使ってみたり、日記に書いてみたり、日ごろから日本語の本やビデオなどに触れたりすることが効果的です。

学校と家庭の両方で日本語に触れることで、子どもたちの日本語は少しずつ、確実に育っていきます。

畠山 友里

第99回 全パリ・ソフトボール大会

(2026年6月21日、6月28日 及び7月5日)

日本ソフトボール協会会長杯並びにマイルド・セブン旗争奪戦

(在仏日本人会主催、日本トランスユーロ社協賛)

長い冬の灰色の空から太陽の燦爛と輝く季節へと少しずつ移って行きます。その事をソ連時代の或る作家が次の様に述べています。
「春は真っ直ぐやって来るのではない。あっちへ曲ったり、そっちへ行ったり、そして同じ所へ留まったりします。時には冬に逆戻りもします。やっと春は来るのです。」と。

その春の来る場所はBoulogneの森やVincennesの森でしょうか。4月一杯はまだ北風に雨が混じります。そして風薫る5月が来る。フランスでは今年5月1日から第1週末を始め、4回が3連続休日以上となりました。従って普通3連続日曜日を要するソフトボール大会に5月は向いていませんでした。それらの週末は選手達の家庭サービスの時と化します。最終的にやっと6月21日、6月28日及び7月5日となりました。春季大会としては今迄で一番遅い期日となりました。

参加チームは次の通りです。

- A 在仏日本大使館：練習熱心でメキメキと力を付けている
- B HEC (L'Ecole des Hautes Etudes Commerciales de Paris)：貿易、経済の有名校
- C PSCF (Philippine Sports Club en France)：豪球投手3人も揃えている
- D Paris Mets：大会初期からのチーム。優勝20回以上を誇る
- E Chocoball (元硬球野球選手を含む実力No.1チーム)：日本人チームを代表する力有り

【試合記録】

初日 6月21日 日曜日

試合	対戦	結果
第 1 試合	在仏日本大使館 / HEC	34 / 19
第 2 試合	在仏日本大使館 / PSCF	5 / 0
第 3 試合	HEC / Chocoball	9 / 14
第 4 試合	PSCF / Paris Mets	選手不足で中止
第 5 試合	Paris Mets / Chocoball	13 / 23

2日目 6月28日 日曜日

-5 試合順調に進む。

最終日 7月5日 日曜日 決勝トーナメント

試合	対戦	結果
3位 / 4位戦	HEC (1勝3敗) / PSCF (1勝3敗)	14 / 9
2位 / 1位戦	在仏日本大使館 (3勝1敗) / Chocoball (4勝)	6 / 33

従って、優勝 Chocoball、2位 在仏日本大使館、3位 HEC、4位 PSCF、5位 Paris Mets となりました。

特筆すべき事は在仏日本大使館が初の決勝に駒を進めた事です。投手育成と守備の上達で優勝も遠からじと思われます。今大会で印象に残ったのは白石湊四郎君（小4）と西畑光絆君（CE2; 8才）がスコアード係を手伝ってくれた事です。有難うございました。そして「マロニエの会」会長の二口さんが巻寿司の差入れかたがた応援にお出頂きました。関係者の皆様、衷心よりお礼申し上げます。

橋本勝義、西畑孝一、柿崎直文（文責）



<<在仏日本人会2025年会計報告>>

去る7月10日の理事会・総会におきまして2025年決算及び2026年予算が承認されました。

収入	2025年(€)	2026年予算(€)
会費	106,755.31	106,510.00
活動費	127,446.46	125,932.00
日本語補習校	140,572.36	134,667.00
預金利子	463.99	330.00
その他	36,639.91	98,300.00
定期利子	20,835.22	20,800.00
総計	432,713.25	486,539.00

支出	2025年(€)	2026年予算(€)	2026年予算(€)[*]
総務費	139,362.08	142,400.00	147,400.00
施設費	64,165.31	64,500.00	64,500.00
活動費	94,271.69	96,467.00	96,467.00
日本語補習校	93,761.42	102,700.00	102,700.00
税務費	0.00	0.00	0.00
その他	16,118.78	13,200.00	13,200.00
定期利子税	5,000.00	5,200.00	5,200.00
残額	20,033.97	62,072.00	57,072.00
総額	432,713.25	486,539.00	486,539.00

[*]事務局再編に伴う引き継ぎ期間の1名増員の場合

31名の会員の方より2050.40€協力金をいただきました。篤く御礼を申し上げます。

・日本人会理事一覧は、下記のサイトでご覧ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/rijikai/>

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2026年9月20日～11月10日)

パリ日本文化会館 事業案内

【展示】

相撲、神秘的な力くらべ Sumo, forces sacrées

開催期間：6月9日（火）～9月26日（土） 会場：地上階ホール

入場自由・無料

内容：フランス人写真家・映像作家ブルーノ・アヴェイヤンが、鳴戸部屋に密着し、元横綱・琴欧洲勝紀の指導のもとで稽古に励む力士たちの姿を記録。力強さに偏りがちな相撲の従来のイメージから距離を置き、土俵での沈黙や呼吸、ひとつひとつの所作の美をカメラに収めた。本展は相撲における「力」と「美」の緊張関係を軸に、写真を通じて相撲を身体表現として再考する試み。

Five Views～日本の新進写真家～

開催期間：10月6日（火）～11月14日（土） 会場：地上階ホール

入場自由・無料

内容：新世代の写真家5組（The Copy Travelers、千賀健史、鈴木麻弓、南川恵利、宮地祥平）による展覧会で、パリ日本文化会館とT3 PHOTO FESTIVAL TOKYOの連携企画。震災の記憶や社会規範、身体表現、イメージの複製などをテーマに、各作家が独自の視点で社会との関係性を問い直す。本展は現代写真の新たな可能性を提示するとともに、「写真誕生200周年」記念事業として開催。

春画―江戸時代の官能芸術の傑作

開催期間：11月12日（木）～2027年2月13日（土） 会場：2階展示ホール

参加費：一般7€ / 割引5€ / 会員無料

内容：世界中で再評価が進む官能芸術「春画」に焦点を当て、歌麿や北斎をはじめとする数多くの傑作を揃えた展覧会。木版印刷 技術の発展により江戸時代に花開いた春画は、当時、性的欲求を満たすだけでなく、新婚夫婦への性教育や娯楽として老若 男女に幅広く親しまれていました。当時の芸術家たちは、版画や絵画の卓越した技量のもと、検閲を掻い潜るべく想像力を駆使して多様な作品を遺しました。そんな春画作品を一堂に集めたフランスでも稀有な展示です。[18歳未満入場不可]

【公演】

Okina マキシム・キュルヴェルス

日時：9月24(木)20時～、9月25日(金)20時～、9月26日(土)17時～

会場：大ホール 入場料：一般20€ / 割引18€ / 会員16€

内容：演劇人類学の探求で知られる演出家マキシム・キュルヴェルスによる本作では、女性が演じることを禁じられてきた能「翁」に、女優・板橋優里が挑む。仏教儀礼に属し、長らく男性のみで上演されてきたこの演目に対し、あえて正面から批判せず、新たな視点を提示することを試みる。板橋は、自身の言葉と舞踊を通してこの文化的タブーに向き合い、能以前の農耕社会における演劇への回帰や、現代に残る禁忌を問い直す。本作は、不可能を乗り越えようとする一人の女優のエンパワーメントでもある。

邦楽三曲公演

日時：10月3日（土）16時～ 会場：大ホール

参加費：一般20€ / 割引18€ / 会員16€

内容：三曲とは、尺八、三弦（または三味線）、箏からなる楽器編成と、その演奏曲目の両方を指します。今回のコンサートでは、山田流と生田流の優れた演奏家7名が、江戸時代の古典作品と、チャリック弦楽四重奏団との共演による世界初演作品を演奏します。生田流と山田流の二大流派が同じ舞台で共演することも、このコンサートの大きな見どころ。

邦楽公演 「おとの三井寺」

日時：10月10日（土）15時～ 会場：大ホール

参加費：一般20€ / 割引18€ / 会員16€

内容：1200年以上の歴史を有する古刹・三井寺を舞台に、和歌、声明、能、邦楽、クラシック音楽、現代音楽など多様な表現と異なる思想を響き合わせ、単なるジャンルの融合にとどまらない、音楽を通じた『平和の文化』の可能性を探ってきた「おとの三井寺」。出演は、人間国宝・能楽師の辰巳満次郎、謡・辰巳和磨、尺八・藤原道山、三井寺流声明衆、そして「おとの三井寺」芸術監督であり、パリで学んだクラリネット・吉田誠。観客を、文化や歴史の境界を越えた静謐な「響き」の体験へと誘う。

加藤拓也「ここが海」リーディング劇

日時：10月23日（金）20時～(日本人キャスト)、
24日（土）15時～(フランス人キャスト) 会場：大ホール

参加費：一般10€、割引7€、会員5€

内容：加藤拓也は、日本の現代演劇・映像分野で注目される若手作家・演出家。会話のわずかなズレや沈黙を通して人間関係の奥行きを描き出し、国内外で高い評価を得ている。本作は、性別移行によって本来の自分として生きたいと告げられた家族を描き、「性の多様性」をめぐる現実と葛藤、当事者と周囲の人々のあいだに生じる「壁」と対話の可能性を問いかける。フランス人キャストと日本人キャストのダブルキャストで上演。

ダンス Off Road―大森瑠子

日時：11月6日（金）20時～、7日（土）18時～ 会場：小ホール

参加費：一般15€ / 割引 13€ / 会員10€

内容：パリ市立劇場主催の国際ダンスコンクールで受賞を果たし、そのポップで 予測不能な振り付けで欧州で注目を集める振付家・ダンサー大森瑠子。2027年3月に控えるパリ市立劇場公演に先立ち、客席との緊密 な距離感のもとその場の音、光や空気に応答しながら、未知の地形へと 踏み出していくパフォーマンスです。

【映画】

相撲映画特集

上映作品：『シコふんじゃった。』『エノケンの警れの土俵入』『菊とギロチン』

日時：9月24日（木）会場：小ホール

参加費：一般6€ / 割引・会員3€

内容：国民的なスポーツにとどまらず、日本文化の神髄を体現する相撲。本特集は、そうした伝統の土俵に立つ力士たちの姿をフィクションとドキュメンタリーの両面でお届け。

伊藤大輔監督特集―時代劇の美学と叛逆

日時：9月25日（金）～10月31日（土） 会場：小ホール

参加費：一般6 € / 割引・会員 3 €

内容：「時代劇の父」といわれる伊藤大輔監督（1898-1981）のフランスをはじめでの単独特集上映。1920年から50年に及んだキャリアから、戦前と戦後 から代表的な9作品を上映。イタリア・ボローニャ復元映画祭、柳井イニシアティブの協力のもと、戦前のサイレント作品は活動弁士、ピアノ伴奏付きの上映でお届けします。

講演会 日本映画と酒

上日時：10月8日（木）会場：小ホール及びフォワイエ

参加費：一律12€

内容：舛田利雄『「無頼」より 大幹部』（1968）『弁天小僧』 © 1958 KADOKAWA PICTURES 恋の酒、メロドラマの酒、喜劇の酒―日本映画はあらゆる酒の味わいを描き続けてきました。パスカル＝アレックス・ヴァンサン（映画監督・ソルボンヌ・ヌーヴェル大学）による映像資料を交えた日本酒と映画についての講演会のあと、「Kura Master」と の共催により100種類の日本産酒類の試飲会を行います。10月10日（土）には、酒を酌み交わすシーンが印象的な小津安二郎『お茶漬の味』と成瀬巳喜男監督『浮雲』の関連上映も。

水曜日の名画座―無法者たちの貌（かお）

日時：10月21日、11月18日、12月16日 会場：小ホール

参加費：一般6€ / 割引・会員3€

内容：月に一度、日本映画の珠玉の名作を上映する「水曜日の名画座」。今季 はアウ トロー特集。各回専門家による上映前作品紹介トーク付き。

・10月21日：深作欣二『仁義の墓場』（1975）[登壇： Pauline Martyn]

・11月18日：加藤泰『懲役十八年』（1967）[登壇： ジャン＝フランソワ・ロジェ]

・12月16日：舛田利雄『「無頼」より 大幹部』（1968）[登壇： ファブリス・アルデュエニ]

子ども・家族向けアニメ映画上映

実施日：10月24日（土）～31日（土）会場：小ホール

参加費：3€/10人以上の子どもグループは無料

内容：内容：今回のアニメ上映は「お仕事」をテーマにお届け。

10月24日（土） 「ジョゼと虎と魚たち」（仏語字幕）、「風立ちぬ」（仏語字幕）

10月28日（水） 「北極百貨店のコンシェルジュさん(仏語吹替)
「ルックバック」(仏語字幕)

10月29日（木） 「魔女の宅急便」(仏語吹替)「映画大好きポンポさん」(仏語字幕)

10月30日（金） 「紅の豚」(仏語吹替)、「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」(仏語字幕)

10月31日（土） 「千と千尋の神隠し」(仏語字幕)、「千年女優」(仏語字幕)

【講演会・セミナー・シンポジウム】

津波の木：畠山直哉―震災のあとでー

日時：10月3日(土)14時～16時 会場：小ホール 参加費： 無料（事前予約制）

内容：2011年の東日本大震災から15年を経ても、津波の痕跡は今なお深く残されています。写真家・畠山直哉氏は、一方は生き茂り他方は枯れたクルミの木との出会いをきっかけに、被災地の木々に目を向けるようになった。本講演では、写真集『Tsunami Trees』（「津波の木」）の刊行にあわせ、風景と向き合い続ける畠山氏の表現と活動を紹介するとともに、共同プロジェクト「Teiten」に取り組むティボー・オノレ氏をモデレーターに迎え、日仏での展覧会構想についても語り合う。

まなざしの変容 ―戦後から現代までの日本写真～

日時：10月6日(火) 18時30分～ 会場：小ホール 参加費：無料

内容：戦後から現在に至るまで、技術的進展は写真表現のあり方を大きく変化させてきた。時代の流れのなかで、日本の写真は独自の変遷を重ね、多様な視覚的アプローチを発展させてきた。本講演では、本展「Five Views」のキュレーターである小高美穂が、フランス国立図書館（BnF）キュレーターのエロイズ・コネザとともに、これらの変化の軌跡をたどりながら、日本の写真家たちがいかに多様な視点を提示してきたかを明らかに。

講演会&試飲会「日本映画と酒」

日時：10月8日（木）17時半～ 会場：小ホール 参加費：12€

内容：日本映画と日本酒は古くから密接に結びつき、多くの印象的な場面を生み出してきた。小津安二郎をはじめとする監督たちは、恋愛や喜劇などの中で日本酒を重要なモチーフとして描いてきた。本講演では、映像資料とともに名シーンを振り返り、映画監督・作家でソルボンヌ・ヌーヴェル大学教員のパスカル＝アレックス・ヴァンサンがその魅力を解説。さらに、「Kura Master」出品酒約100種の試飲会も実施し、10周年の最高賞「プレジデント賞」受賞酒も特別に紹介する。

「日本映画と酒」講演会の関連映画上映：

10月10日（土）：小ホール / 一律料金：3€

14h > 『お茶漬の味』（監督：小津安二郎、日本語音声・仏語字幕付き）

17h > 『浮雲』（監督：成瀬巳喜男、日本語音声・仏語字幕付き）

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2026年9月20日～11月10日) 続き

坂口安吾 生誕120年講演会～混乱の時代に生きた作家～

日時：10月9日(金) 18時30分～20時30分 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：坂口安吾（1906-1955）は、『墮落論』や『白痴』、『不連続殺人事件』などで知られる、日本文学を代表する作家の一人である。本対談では、フランスではまだ十分に紹介されていない安吾の作品世界に焦点を当て、エステル・フィゴン氏とエマニュエル・ロズラン氏が、その現代的な魅力と多面的な文学世界について語り合う。

日本におけるグラフィックデザインー ある世代の地図

日時：10月16日（金）18時～19時半 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：ディモス・アレクサンドルが、現代日本の若手グラフィックデザイナー約20名への調査をもとに、その世代の特徴と日本デザインの多様性を探る。研究成果は展覧会および2026年刊行予定の書籍で紹介される。

ベルナル・フランク（1927-1996）を偲んで～日本研究先駆者の大いなる貢献～

日時：10月17日(土) 14時30分～16時 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：ベルナル・フランク教授は、仏教研究や日本文化研究を通じて日本学の発展に大きく貢献した学者である。本講演では、6名の研究者がその功績と遺産を振り返る。講演後には、フランク教授が翻訳に関わった映画『橋山節考』（今村昌平監督）の上映も行う。

フルクサスと日本

日時：10月22日（木） 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：2025年に当館で開催された「モノのエコロジー」展は、日本で生まれた「もの派」と前衛芸術運動「フルクサス」の関係に着目した展覧会であった。本講演では、共同キュレーターのアレクサンドル・クワが、フルクサスと日本とのつながりや、この運動を代表する芸術家たちを紹介する。

「春画―江戸時代の官能芸術の傑作」展オープニング講演会

日時：11月10日（火）18時～19時半 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：11月12日から開催する「春画―江戸時代の官能芸術の傑作」展のオープニング講演会を実施。本展コミッショナー2名が登壇する。

視線の変遷―戦後から現代までの日本写真

日時：11月12日(木) 18時30分～20時30分 会場：小ホール 参加費：予約制無料
内容：パリで開催されるグループ展「Five Views」を記念し、参加作家5組とプログラムディレクターの太田睦子を迎え、現代日本写真の多様な表現とその可能性について語り合う。

【ワークショップ】

篆刻

日時：9月26日土曜日13時、16時 会場：教室2 参加費：45€
内容：篆刻は書道の一分野であり、「方寸の世界に宇宙を宿す」とも称される小さな芸術である。本ワークショップでは、篆書またはかな文字で名前や好きな文字を刻み、世界に一つだけのオリジナル印を制作する。さらに、印を保護するための「はかま」作りにも挑戦する。

エコビレッジ「むら」を知ろう！

日時：10月17日（土）11時半、13時半、15時 会場：レセプションホール 参加費：20€
内容：エコビレッジ「むら」は、2022年にセヌ＝マルヌ県で4人の日本人女性によって設立されたプロジェクトである。本講座では、その活動と今後の展望を紹介するとともに、収穫野菜を使った料理や「もったいない」の実践、自然素材を用いた工芸のデモンストレーションを通じて、日本の暮らしの知恵を体験する。

子ども日本舞踊アトリエ

日時：10月20日（火）及び21日（水） 会場：小ホール 参加費：浴衣レンタル付き15€、レンタル無し12€、学童セッション子ども一人当たり8€
内容：400年近い歴史を誇る古典芸能である日本舞踊。子ども日本舞踊アトリエはお子さんたちに日本舞踊を五感で体験してもらうアトリエ。手を膝に背筋を伸ばして先ずはお辞儀から。そして、実際に舞台上で踊る。着物やお稽古道具(扇子、手拭い等)に触れつつ日本舞踊の世界の扉を開きましょう。（講師：藤間裕風）13時半～：幼稚園から小学生の学童グループ/ 14時半～16時：幼稚園から小学生低学年、5歳～8歳児/ 16時半～18時：小学生中学年以上、9歳以上

1月始まり手帳

手帳・日記の一覧を見る

27

続々入荷中！

営業時間 月～土 10時～19時

Librairie japonaise JUNKUDO
18 rue des Pyramides
75001 Paris France
Tel: 01 42 60 89 12
Mail: contact@junku.fr

新刊案内、アトリエやイベント情報は @JunkuFr

子ども向け「妖怪のお面を作ろう！」ワークショップ

日時：10月22日（木）14時、15時半、17時 会場：教室2 参加費：13€
内容：イラスト作家Doria Krioucheの絵本YODORIの世界に行って様々な妖怪たち会遇到してみませんか？紙皿を使って鬼やキツネといった妖怪のお面を作ってみよう！6歳以上対象（8歳以下のお子様は大人の同伴要）

日本の伝統文化「しめ縄」づくり

日時：10月23日（金）及び24日（土） 会場：レセプションホール
内容：日本の正月に欠かすことができないしめ縄飾り。しめ縄の歴史は古く、日本神話までさかのぼります。神話の時代から現代まで受け継がれる日本の伝統文化。今の時代に合わせたしめ縄を作ることによって日本人が古くから続けている文化と一緒に楽しみましょう。（講師：河村むつみ）

・子ども向けセッション：11時半及び14時半 参加費 20€

・大人向けセッション：16時半 参加費 40€

マンガの描き方を学ぼう

実施日：10月27日（火）～30日（金）、14時～17時

会場：教室1

内容：マンガキャラクターを作ってみよう！ワークショップでは次のことを学びます：顔の描き方の基本（正面、横顔、斜め）を学ぶ、「ちびキャラ」（デフォルメされたキャラクター）の作画、人体のプロポーションの理解、表情の描き分け、マンガのコマ割り

*以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。

【教室】 <https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours>

囲碁教室 裏千家茶道-茶の湯 裏千家茶道教室 表千家茶道-茶の湯 表千家茶道教室-立礼 日本庭園教室 生花教室 書道教室 日本画教室 布ぞうりワークショップ 折り紙ワークショップ 日本舞踊教室

【日本語講座】

<http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais>

【JFにほんごeラーニングみなと】

https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

火曜日～土曜日、11時～19時 問合せ先：TEL 01 44 37 95 01

所在地：101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris

<http://www.mcjp.fr/>

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

川柳仲間大募集中!!

日本人会「川柳パリ会」
第五十一回選句結果発表！

今回のお題は、
「城・クーラー・高校野球」。

夏らしい風景から世相を切る一句まで、今回も個性豊かな作品が集まりました。ユーモアの中に、ふっと考えさせられる視点が光るのも川柳の魅力ですね。

【秀逸】
オレの城手を伸ばせばみな届く （無駄毛）

【二席】
甲子園今も変わらず昭和なり （とらこ）

【三席】
ノークーラー頭クラクラフラフラに （自由人）

◆最高得点賞 とらこ

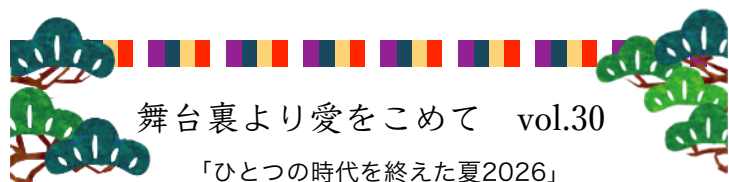
受賞された皆さま、おめでとうございます！
そして投句・選句していただいた会員の皆さま、今回もありがとうございました。

日本人会「川柳パリ会」は、句会を始めてから四年。毎回、笑いあり、共感あり、時には社会風刺ありの、温かな句会を続けています。

これまでの句会の様子はこちらからご覧いただけます。
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/activities/activity/senryu/>

また、日本人会「川柳パリ会」では新しい川柳仲間を募集中です。「作るのはちょっと…」という方も、まずは「通りすがりの野次馬」として大歓迎。ぜひお気軽に、過去の句会を覗いてみてください。

リンク：<https://ntgm.nolimbre.com/paris/login>
柳号：通りすがり PW：paris75116



舞台裏より愛をこめて vol.30

「ひとつの時代を終えた夏2026」



「なに？犬？この神聖な稽古場に犬?! そんな犬畜生を飼うなんてことは無理です」コレはかれこれ16年前のお話、稽古場兼自宅である我が家で、子どもたちの為に犬を迎えたいというモンマリへの“ご相談”に対して言い放たれたお言葉…犬畜生ってあなた、他にも言いようがあるでしょうに…でもね、わたくしの場合“ご相談”は“決意表明”でして、もう覆すことなど出来ない状況であることを学習していないモンマリ。ふ、ふ、ふ…そんなこんな水面下で進めていたプロジェクトを決定する日がやって参りましたクリスマスイヴ。

子守留守番の経験が極端に少ないモンマリは当時11歳と8歳の我が子から度々なる母不在質問攻撃を交わしながら、どれだけわたくしの帰宅を待ちわびていたことでしょう。遠方往復のわたくしの帰宅は夜となり、子ども達は眠りにつき、ふて寝を決めていたモンマリを横目に、ツリーの下へ仔犬を仕込み、長旅後の身体を少しばかり休ませた翌朝。子ども達がプレゼントを開け出す傍らでモンマリは仔犬の眠る箱を開けるようやんわりと促していたりして、実はわんちゃんのお迎えを楽しみにしていたのでは？蓋を開けた子ども達の手元を見てビックリ仰天のモンマリ。「なにコレ!!に、二匹かよ?!!」ってええ、留守の多い我が家で二匹が淋しくないよう、そして子ども二人がそれぞれ面倒見られるよう二匹お迎えしたのです。

思いの外“ドッグセラピー”効果観面だったモンマリ。あれだけ“畜生”呼ばわりだったクセに、帰宅の度「はい！パパ！帰って来まちたよー！そうでちゅかそうでちゅか、嬉しいでちゅか、はいはい！」と顔面を舐め回させ、我が子にも使ったことのないような赤ちゃん言葉を連発。その脇で冷ややかに様子を伺う子ども達のこと気がつく由もなく…

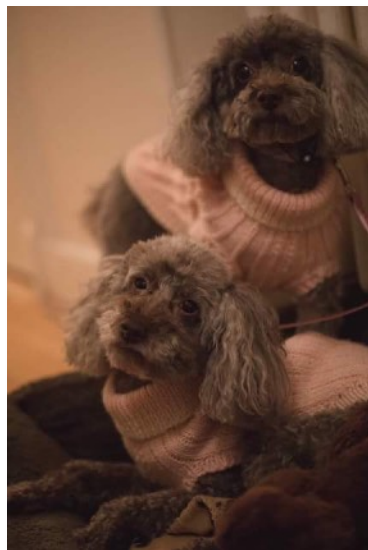
そんなモンマリにとってのセラピー全勝犬、子ども達とわたくしにとりまして無償の愛を注ぐわんこたち“プティット”と“ピッコラ”がこの夏、立て続けに虹の橋を渡りました。お犬様天国の国フランスで犬生の半分以上を過ごした二匹が、皆が日本にいるタイミングを見計らい逝ってしまいました。

渡航時の客室内持込は搭乗者一人に一匹がルールのため、息子のスケジュールが忙しくなり、わたくしとの往き来が難しくなったタイミングで実家に預かってもらっていた“プッチャン”は母に見守られながら眠るように。そして人見知りなわたくしと最後までパリ往き来をしておりました“ピッコ”は日本自宅で、具合が悪くなり始めてから13日目に。“子ども達に命の大切さを学ばせる為”が一番の理由で迎えた二匹。母に負担がかからぬよう

スツと天に上がったプッチャン。ピッコは10日あまりの間、少しずつ衰弱し枯れてゆく姿を見せながら…パリ、大阪、京都といつもバラバラな家族は、その時を共に迎えるため、多忙の合間を這いつくばり、死にものぐるいでやって来てはピッコの傍に寄り添い、胸に抱きながら、寝たか寝ないかの日々。思えばこんなにも家族が団結し心通わせたことはこれまで無かったかもしれません。

プッチャンの旅立ちから1ヶ月と10日後の同じ時間にピッコは息を引き取りました。残り香や面影に涙はまだペットロスは癒えませんが、それぞれの逝き方を通して生命を見せ学ばせ役目を果たしてくれた大切な家族。日仏で可愛がって下さいました方々へ心より感謝致しますと共に、この場をお借り致しましてご報告申し上げます。本日はこの辺で。

平和への祈りを込めて。



パリ宅でのPetite(上)とPiccola(下) (2018)
撮影:小田光氏



フランス人物伝 <30>

～アリス・ギイ＝ブラシェ (映画監督)～

坂本 昭二

アリス・ギイ＝ブラシェ (Alice Ida Antoinette Guy-Blaché : 1873-1968) は1873年7月1日にパリ近郊のサン＝マンデ (Saint-Mandé) で生まれていますが、生後間もなくにスイスのジュネーブ近郊の母方の祖母に預けられ、3歳か4歳の頃に両親が書店を営んでいた南米チリに移り、6歳の時に再びジュネーブに戻って3人の姉と共に寄宿学校で学んでいます。この間にチリでの大地震により父の書店経営が破綻したこともあり、一家はフランスに戻り、最終的にアリス・ギイはパリ17区のカルディネ通りの学校で勉強を終えました。その後、知人の勧めで当時としては最先端技術であったタイピングと速記を学び、1894年に大手の写真会社に秘書として入社しました。



Alice Ida Antoinette
Guy-Blaché

1895年3月にアリス・ギイは上司のゴーモンに伴われ、リュミエール兄弟による映画のプライベート上映会に出席、この時ゴーモンは映画を単に撮影機材を売るための実演デモと捉えましたが、この歴史的瞬間に立ち会ったアリス・ギイは映画の「物語を語るメディア」としての可能性に気付いていました。アリス・ギイはゴーモンに自身で映画を撮らせてほしいと直談判し、ゴーモンは仕事に支障をきたさないことを条件にそれを許可しました。

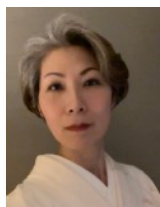
1896年、アリス・ギイは23歳でフランスの古民話をベースにした『キャベツ畑の妖精 (La Fée aux Choux)』を監督します。わずか1分ほどの作品でしたが、これが世界最初期のフィクション映画となり、その後もゴーモン社の映画製作責任者として、フィルムを彩色するカラー化、映像と音声の同期、映像の特殊効果 (SFX) などの技術を取り入れ、次々と映画を製作しました。

1907年、アリス・ギイはゴーモン社のイギリス・アメリカ支社長となった夫のハーバート・ブラシェと結婚し、アメリカへ渡ります。彼女はここでも映画製作を行うため、1910年にニューヨーク近郊に自身の映画会社ソラックス・カンパニー (Solax Studios) を設立、そして、ニュージャージー州のフォートリー (ハリウッド誕生前のアメリカ映画の聖地) に巨大な撮影スタジオを建設、彼女は社長兼監督として映画を量産しました。しかし、1910年代後半になるとアメリカ映画産業の中心は西海岸のハリウッドへと移り、大手資本との競争に晒された結果、アリス・ギイはスタジオも財産も失ってしまいました。

後年、アリス・ギイが世界初の女性監督であり、フィクション映画のパイオニアであった事実はアリス・ギイが女性であったために不当に忘れ去られ、1968年に移住先のアメリカで94歳の生涯を閉じています。

アリス・ギイの死後、1970年代以降の映画研究の進展によって、彼女の遺したフィルムの再発掘と再評価が始まり、現在では彼女はリュミエール兄弟やジョルジュ・メリエスと並ぶ、映画のパイオニアとしてその名を刻んでいます。近年、彼女の生涯を追ったドキュメンタリー映画『映画はアリスから始まった』も製作されています。

(画像はwikipediaより引用)



小笠原尚子 (おがさわらたかこ) プロフィール :

“やんちゃ狂言師の裏方古女房” 東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。

現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開!

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみ)

*要予約(電話に限る): 01.53.76.17.58

法律相談(フランスの法律問題) (手配料 5ユーロ)

事前予約の上、電話で相談を受け付けます。

法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

健康相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

無料子ども相談室

臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「子ども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会

有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。

代表 眞田美佐子 連絡先 sanadamisako@yahoo.fr

子ども図書館

読み聞かせ 毎月第1および第3水曜日 11h30~13h00。

日本語児童図書の貸出・返却は随時。永年登録料: 子供一人/2ユーロ

女声コーラス「みもざ」

コーラスの仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。

日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13:30~16:00、Notre Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte Maillot)

https://mimosa-club-japon.jimdosite.com/ を参考に。

連絡TEL 06.33.89.56.59(石原) メール: mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の18h頃~20h頃、オペラ界隈のカフェTabac Le Ventadour 46, rue des Petits Champs 75002 Paris、あるいはカフェDalayrac 2, rue Dalayrac 75002 Parisに於いて月例の親睦会を開きます。飲み物代は自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。問い合わせは日本人会まで。

親睦会、次回は11月3日(火)と12月1日(火)です。

NACクラブ会員アーティスト展

会期: 10月8日(木)~10月10日(土): 木曜、金曜 12h~19h 土曜 10h~18h30
ヴェルニサージュ10月8日(木) 18h~20h

会場: 天理日仏文化協会・地上階大展示ホール

8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

入場無料

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs 75001 Paris 第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。

ホーム訪問、講演会、新年会、日本祭参加、郊外農園バーベキュー大会、バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。

会報を年3回送付。年会費 20ユーロ

連絡TEL: 06-5170-4955 (二口) 06-2253-7418 (六藤)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡: 実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club

(Stade Henry de Montherlant: 32 Bd. Lannes 75016 Paris)

小学生 毎週火曜日(現地校のバカンスを除く)

火曜日 17時18時 小学校低学年から高学年まで

ただいま、若干空きがあります。

メールにてご相談ください。

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

書道同好会

*COMPLET 現在空きがございません。

毎週木曜日 15h~17h 参加費: 月20ユーロ

講師: 林 信賢

TEL 代表: 06 22 53 74 18 国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室

水曜日14h00~17h00 土曜日13h00~17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39 (中村)

シャンソンDidier教室

日時: 第2・第4土曜日(16時~18時)

場所: Pavillon de la Sirène

20, rue Dareau 75014 Paris M°Denfert-Rochereau

詳細は下記にお問い合わせください。

ch.tanaka@orange.fr Tel. 06 0383 2674 (田中)

今年のコンサートは11月29日(日)に決まりました。

参加希望の方は急ぎご連絡ください。

氣功教室

毎週木曜18h30~19h45全レベル参加歓迎

会場: 天理文化センター 8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

最寄駅 Châtelet 参加費: 1時間 9ユーロ(日本人会会員割引あり)

氣功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭(ソルボンヌ大学医学学院利気功・太極拳講師) TEL: 06-69-43-54-45 メール: yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレクション/現役モデルによるウォーキング・写真のポーズ・メイクアップ・Before & Afterなどニーズに合わせたプライベートレッスン(コース3回・180€/3h) プロ志望の方、カウンセリング、Zoomオンラインも可能(非会員: 別途料金)

詳細はお問い合わせください。facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655
講師: 北幸子(所属: Paris: Master Models, Tokyo: Oasis Styling)

日本館茶の湯会(裏千家流)

於国際大学都市日本館

稽古日 金曜日(14時半~17時半) 月二回

土曜日(13時~16時半) 月二回

(特別企画) 親子茶会和の学校

年会費 25 ユーロ・稽古参加費 一般 25 ユーロ

連絡先 nihonkan.cyanoyu@gmail.com

chakaimomoe@gmail.com (親子茶会和の教室専用)

成人学習者向け日本語講座

*現在活動休止中

ヨガ教室 個人レッスンとオンラインレッスンに加えて、今春からグループレッスンを再開しました。詳細はメールにてお問い合わせください。

日時: 平日午後を中心に参加者のみなさまのご都合に合わせて

会場: パリ市内 対象者: 全てのレベル 参加費: 1時間30€から

講師: ラロッシュ・アメリ

問合わせ・申込み: info@vacances-amelie.com (日仏)

川柳パリ会

インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな句会を中心にした活動です。川柳をネット上の句会に投句したり、他の会員の川柳を楽しんだり、優秀だと思える作品を選挙して参加することが可能です。

連絡先: 代表 石井 宏 parisici@yahoo.co.jp

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/

amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。

https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/



日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS
TEL.01.53.32.20.00 まで
FAX.01.42.85.04.65



Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュノー
会友)

当会フランス語講座講師
1978～98年日本に滞在
元上智大学講師

M- 今日は、ジャンヌの友人たちについてお話ししたいと思います。

E- 日本ではジャンヌ・ダルク(1)がよく知られています。しかし、彼女がイギリス軍の捕虜となった際、なぜシャルル7世(2)は何もしなかったのか、ずっと疑問に思っていました。

M- シャルル7世は、イギリスと同盟を結んでいたブルゴーニュ派(3)との政治的な和解を望んでいました。また、彼はジャンヌに敵対的な側近たちの意見に耳を傾けてもいました。さらに、イギリス側はジャンヌを死なせるつもりでいたのです。

E- ジャンヌを気にかける人はいなかったのですか？

M- もちろん、彼女を愛する忠実な友人たちはいました。とりわけ、最初期から、そしてオルレアン解放の際にも彼女を揺るぎなく支え続けたデュノワ(4)や、ラ・イール(5)、ザントライユ(6)といった隊長たちがそうです。

E- 彼らは彼女を救出しようとしたのですか？

M- ええ、二度試みましたが、いずれも失敗に終わりました。最初の試みは1430年10月、コンピエーニュで行われたが、ジャンヌは既にそこにおらず、イギリス海峡沿岸のル・クロトワにいました。2度目は1431年3月、ジャンヌの裁判中にルーアンで行われたが、裏切りにあいました。

E- とここで、このピエロヌヌ(7)とは、誰ですか？

M- 彼女はブルターニュ出身の若い女性でした。ジャンヌを慕い、オルレアン解放の時から彼女に付き従っていました。1430年の春、彼女はイングランド軍に捕らえられました。

E- ジャンヌがコンピエーニュで捕らえられたのと、ちょうど同じ頃ですね。1430年5月23日のことですが……。

M- ええ、その通りです。彼女はその後、イングランド軍の支配下にあったパリへ、二人の間と共に連行されました。極めて迅速な裁判の末、二人の間は釈放されましたが、ピエロヌヌは釈放されませんでした。

E- なぜイングランド軍はピエロヌヌを釈放しなかったのですか？

M- ピエロヌヌはジャンヌ・ダルクを天に導かれた聖女だと主張していたからです。パリを支配していたイングランド軍は、ピエロヌヌに復讐しようとした。略式裁判の後、ピエロヌヌは1430年9月3日、パリのグレーヴ広場(現在の市庁舎広場)で火刑に処されました。

E- なぜ彼らはこの女性にこのような形で復讐したのでしょうか？

M- 当時、ジャンヌはまだイングランドの手に落ちておらず、ブルゴーニュ軍の捕虜でした。ブルゴーニュ軍がジャンヌを引き渡したのは、多額の身代金を受け取った後の1430年11月のことでした。

E- つまり、ピエロヌヌはジャンヌへの忠誠心ゆえに火刑に処されたのですね。

M- まさにその通りです。彼女についてはほとんど知られていませんが、だからこそ、忘れ去られることのないよう称えるべきなのです。ピエロヌヌの存在は、ジャンヌに対する民衆の愛着と敬慕の念を物語っています。

(1) ジャンヌ・ダルク (Jeanne d'Arc) : (1412頃-1431) 百年戦争でフランスが苦境にあった時代に登場した少女。1429年、オルレアン解放に大きく貢献し、シャルル7世をランスでの戴冠へと導いた。その後、ブルゴーニュ派に捕らえられ、イギリス側の宗教裁判で有罪とされ、1431年に火刑に処された。のちにフランスを救った英雄として、国家と国民の団結を象徴する存在となった。

(2) シャルル7世 (Charles VII) : (1403頃-1461) シャルル7世は、百年戦争末期にジャンヌ・ダルクの支援を受けてフランスを勝利に導き、同国の再建を成し遂げたヴァロワ朝第5代のフランス国王。

(3) ブルゴーニュ派: 百年戦争期にフランスに存在した派閥。アルマニャック派とフランスの主導権をめぐって争った。

(4) デュノワ (Jean de Dunois) : (1402 - 1468) 百年戦争期のフランスの貴族・軍人。ジャンヌ・ダルクとともにオルレアン解放に尽力した。

(5) ラ・イール (La Hire) : (1390 - 1443) 百年戦争で活躍したフランスの軍人。ジャンヌ・ダルクとともに各地で戦った一人。

(6) ザントライユ (Xaintrilles) : (1390ころ - 1461) 百年戦争末期のフランス軍のジャンヌ・ダルクと行動をともにした主要な指揮官の一人。

(7) ピエロヌヌ (Pierronne) : (不詳 - 1430) ジャンヌ・ダルクを支持したブルターニュ出身の女性。1430年9月3日火刑に処された。

日本の四季のレシピをフランスで

九月 厳しい暑さの後 時折吹く涼やかな風、夜の虫の音に初秋の訪れを感じます。今日もお疲れ様でした。重陽のお節句、お彼岸、お月見、美しい季節のなか、「お帰りをなさい」の気持ちをこめて用意しました、今日のごはんです。夏のお疲れが出ませんよう、お大事にお過ごし下さい。

【 たこめし 】 子供たちの好物、ゆでだこ、油揚げ、人参を入れ、しょうゆ、塩、だしで炊きます。

【 とうもろこしご飯 】 生のとうもろこし、ひげも入れて炊きます。味付けはしません。とうもろこしの甘味が、炊き立てのご飯に美味です。

【 高野豆腐の煮物 】 たっぶりの昆布だしで、高野豆腐、人参、椎茸、れんこんを煮ます。オクラはさっと湯がいて、後から添えます。

【 きゅうりの一本漬け 】 子供たちの好きな一本漬け。フランスの大きなきゅうりは、縦長に半分に切ってお使い下さい。きゅうりに少し切り込みを入れ、塩をこすりつけ、昆布を入れ、冷凍保存バックに入れます。しんなりしたら、どうぞ。

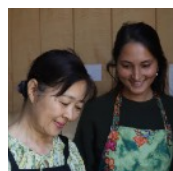
【 ごぼうの和え物 】 ごぼうを千切り、茹でて、酢、砂糖少々、塩、マヨネーズで和え、ごまもたっぷり入れます。

【 茄子とみょうがのお味噌汁 】 友人から頂いたみょうがの苗を植えて、収穫できました。フランスにいながらの貴重なみょうがです。

【 パツと作れるおいしいトマトパスタ 】 ミニトマトは横に半分に切り、切り口を下にフライパンに並べ、みじん切りのんにく、オリーブオイルを入れて弱火で火にかけ、柔らかくなったら、フォークでつぶし、そのまま煮て、塩、胡椒、茹でたパスタをあえて出来上がり、添加物なし、トマトだけで簡単に作れます。良質の塩、オリーブオイルをお使い下さい。お好みでバジルをどうぞ。

※ 里奈の秋のおすすめ ※

秋分の日、仏教の伝統に由来します。9月下旬頃、昼と夜の長さがほぼ等しくなります。お彼岸には家族のお墓を訪れ、先祖への供養と敬意を込め、おはぎをお供えます。秋分の日は、この世とあの世、生きている人の世界と、亡くなった人の世界が最も近くなる時と考えます。妊娠中、近所の方がおはぎを作ってくれました。おはぎは、産後の女性にも親しまれ、出産後の栄養、エネルギー補給。漢方では、たんぱく質が豊富で、必要な栄養素を補う小豆、老化防止、エネルギーや体力を高めるきな粉、血を養う黒胡麻。身体の水分バランスに働きかけ、毒素や余分な水分を排出させます。



倉田 節子・フィエベ 里奈

Instagram: @lina_fievet ウェブサイト: linafievet.com

著書『LA TRADITION DU VEGETAL

(éditions la plage)』の購入は一般書店及びeBookで

<https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon>



終(ついに)のデザインのススメ

己の最後を決めるための 日本における相続・遺言の基礎知識 (74) (日仏間も視野に入れて)

日仏をまたぐ相続、“バラバラに進める”は危険

日本とフランスに財産を持つ方の中には、「日本の相続は日本で、フランスの相続はフランスで、それぞれ進めればいい」と考えている方が少なくありません。しかし、これはかなり危険。前2回で触れたように、制度的に、日本側の相続は“申請等しないと始まらない”のに対し、フランス側は“放置すると勝手に進む(始まる)”ことがあり、考え方が異なる部分があります。財産などの情報が散逸していたり、制度の違いを理解していないと、遺された家族の手に負えない状態になる可能性はありそうです。

◆前2回の復習

日本では今年2月から最重要財産である不動産の全国規模の「名寄せ制度」が始まり、現所有者や故人名義の不動産を全国レベルで確認しやすくなりました。これは大きな前進です。しかし、漢字の揺れや古い登記、住所変更の未反映など、日本特有の事情は依然として残り、この名寄せ制度は万能ではなく、遺産搜索の漏れが起こり得ます。だからこそ、生前に「自分」の名義の不動産を把握しておくことが重要になります。

一方フランスでは、相続人がいない、または全員が放棄した場合の“succession vacante (国による空欠相続管理)”が、2025年から急速にDX化しています。Domaines (仏国税傘下の国有財産管理部門) がオンラインで財産を管理・公示し、進行状況を追跡できるようになっています。放置された財産は、本人や家族が知らないうちに国による管理が進み、後から権利主張することが難しくなる場合があるようです。実際、相続開始から1年ほど経過すると、相続開始を知ったフランスの銀行は「この遺産は vacante に移管される可能性があります」と確認してきます。日本では銀行がこのようなことを言うことはまずありません。制度が現実に対応していることが実感できます。日本側の(不動産の)名寄せが「申請ベース」であるのに対し、フランス側の vacante は「自動進行型」です。両国の制度は、そもそもの考え方が大きく異なり、「スピード感」も違います。ここに日仏をまたぐ相続の難しさがあるのでは、と実務家としては感じます。

◆情報が未整理である危険

前2回で、日本の名寄せとフランスの succession vacante を取り上げたのは、比較できるものではないですが、あえて並べて概観したのは相続においても両国の制度は構造が異なり、在仏日本人の方々や日本に遺された遺族・親族らが「両方の制度の影響を同時に受ける」からです。共通する問題は、制度の違いではなく、「情報が散逸している危険」です。入口(日本)と出口(フランス)でDX化が進んでも、情報が整理されていなければ、家族(相続人)が困るという点は変わりません。

◆今できること

では、日仏をまたぐ方が「今できること」は何でしょうか。まず、日本側では名寄せ制度を使い、自分名義の不動産の所在を把握しておくこと。もし、父母、祖父母等の不動産で、昔の名義のままで自分が持分を持っていると思われたら、それも把握できる範囲で情報を確認しておく方が良いでしょう(相続登記も義務化されたこともありますから)。次に、フランス側の財産—銀行口座、保険、株式、不動産など—の所在を整理しておくこと。そして、遺言で意思を示し、家族や信頼できる人に情報を伝えておくこと。最後に、DX化が進んでも紙の書類は依然として重要です。生前に、紙とデジタルの両方を整理しておくことが、日仏の制度差を乗り越える唯一の方法です。

制度は変化・進化します。ですが、「情報を整える」という生前準備の重要性は変わりません。日仏をまたぐ方こそ、バラバラではなく“一本の線”で相続を考えることが重要ではないかと思えます。不動産の情報も重要ですが、金融情報を含めて散逸したままだと、国際相続の税務上の場面で、思わぬリスクが生じます。(次回につづく)



連載

フランス生活 養生訓



第33回 「コレステロールの意外な盲点」

みなさん、こんにちは。

更年期に差し掛かると、体重は変わらないのに、腰回りがふくよかになり、女性ホルモン(エストロゲン)の減少で、コレステロール(悪玉と呼ばれるLDLコレステロール)値が上昇してしまったという経験をされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

コレステロール自体は細胞膜・各種ホルモン・胆汁酸を作る材料となり、身体にとって必要な物質です。LDLコレステロールは肝臓から全身へコレステロールを運び、HDLコレステロールは血管壁の余分なコレステロールを回収し、肝臓に戻します。つまりLDLコレステロールが増え過ぎてしまうと血管の壁にコレステロールが溜まり、動脈硬化や心筋梗塞の原因となるため、悪玉と呼ばれています。

これを防ぐためには、食事の工夫や無理のない範囲での運動、主にストレスや睡眠などの生活習慣の見直しが必要であり、特に食事面では、肉類やバター、クリームなどに含まれる飽和脂肪酸を控え、オメガ3を始めとする不飽和脂肪酸や食物繊維を意識して多く摂ることなどが推奨されています。ただ、私自身が60歳頃(!)の女性の栄養相談を重ねるにつれ、あまりみなさんが意識されていない意外な食物に落とし穴があるのでは?ということに気がきました…。そして、女性は男性よりもこの食物を積極的に摂取しているかもしれません…。

それは、『果物』なのです。

ジュースは身体に良くないから飲まないわと言う方も、果物は食物繊維を含むし、ビタミン摂取のためにもある程度の量を食べても大丈夫、と思われていらっしゃるのではないのでしょうか。フランスは春から夏、秋に掛けても果物がとても美味しく、今の時期はブドウ、イチジク、洋梨、りんごなど、たくさんの果物が手に入りますよね。

もちろん、果物にはビタミンやミネラルも含まれますし、丸ごと食べれば食物繊維も取れます。ただ大切なのは“食べ過ぎない”ことなのです。果物に含まれる砂糖は、“果糖(フルクトース)”と呼ばれ、砂糖の中でも単糖と呼ばれる糖質の最小単位で身体に吸収されやすい糖です。また、ブドウ糖(グルコース)は小腸で吸収され血液中に取り込まれ全身を巡りエネルギーとして使われた後、肝臓と筋肉に貯蔵されるのに対し、果糖は小腸から直接肝臓に送られ、ここでほぼ100%代謝されるため、過剰摂取すると肝臓で中性脂肪やコレステロールとして蓄えられてしまい、脂肪肝の原因にもなります。また、果糖は満腹を感じにくいいため、果物をたくさん食べても舌や胃が疲れることなく、あれよあれよと言う間に量を食べてしまいがちです。

実は、一日に摂取できる果物は2回まで。ちなみに1回の量は80gから100gです。例えばビクトリアという種類の白ブドウは8粒で80gでした。一房食べるなんてのもっての外!そして特に気をつけたいのがドライフルーツ。これに関しては80gから100gではなく、ドライになる前のグラムで換算して食べてください。レーズンであれば10粒前後、イチジクや杏は約2つで果物1回と換算します。朝に果物を食べ、ヨーグルトやシリアルにドライフルーツを入れ、間食にも果物、食後のデザートで果物食べると、果糖の過剰摂取になりかねません。果物は女子の好物、でも果糖の摂りすぎには要注意です!

参考文献:

厚生労働省 コレステロール

<https://kenet.mhlw.go.jp/information/information/dictionary/food/ye-012>



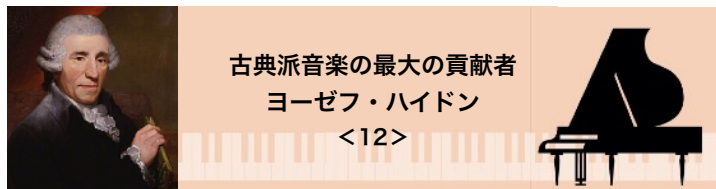
小椎尾 真衣 (こじお まい)

Diététicienne-Nutritionniste / 管理栄養士
Instagram

<https://www.instagram.com/diet.japonaise/>
(日々の食生活をゆるーり綴っています)



司法書士 桑瀬 登起子 (くわせ ときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202



音楽家を志した私がハイドンの優れた音楽性に目覚めたのは実に80歳を過ぎてからのことでしたが、音楽教育を長年にわたって受けていたにもかかわらず、またハイドンとモーツァルトとベートーヴェンが同等に素晴らしく、音楽史上の「古典派音楽」の最高を極める存在であることを自覚はしていません。東京藝術大学附属音楽高等学校に入学して専攻科終了までの9年間で、ドイツ政府給費生として国立ミュンヘン音楽大学卒業する5年間に、同級生たちが、日本人も欧米人などの留学生たちもハイドンを履修していた記憶がありません。

ヘルクレスザールや音楽大学大演奏会上、国際コンクールでの上位入勝者が演奏していたのにも関わらず、ハイドンのクラヴィーア・ソナタに対する、平素おるそかにされがちな履修のギャップが、演奏のトップともいえる音楽会とコンクールという演奏の優劣を競う場面で、有力なカードとして力を発揮するハイドンの作品に不思議な感も致しました。

それがどこからくるのかはおぼろげながら気づいてはありました。ピアノを弾き始めたのは7歳ごろで、やがてソナチネアルバムに進みます。思い出としてモーツァルトとベートーヴェンの作品は難しくても耳から入っており何とかなりました。

ハイドンに関しては、音が動き回る装飾的な走句が変化すること、モチーフやテーマの細部で音程の上下が変わり、楽譜を正確に見ていないと半音程が入り組んでいます。楽句の長さが均等でなく「古典派音楽」の最初の作曲家というモーツァルトとベートーヴェンとシュベールと時代が下るはずなのに「ウィーンの垣根」という4小節単位～8小節単位が変則的な組み合わせで、それに追いついていくのは子供として難儀でした。その理由だけで長い間、ハイドンを履修しなかったのは絶大な損失でした。

19～20世紀ピアノを弾き始める頃の楽器ピアノは17世紀と非常に異なりました。黒鍵と白鍵など押し込む鍵盤の幅も深さも重み、鍵盤同士の間隔位置さえもかなり違っていました。

ハイドンの作品を練習していて痛感したのは、古典派音楽のソナタ形式は基本的に『対称と発展』ですが、ハイドンを考案して僅か数十年のあと、楽器ピアノの普及と音の組み合わせ「音句と楽句」が、モーツァルトとベートーヴェンで微妙に変化したとおもわれます。

追悼

この夏の8月7日、山崎先生が89歳で永眠なさいました。このご寄稿が最後のものとなりますが、書き終えられた記事ではありません。残り300余字の余白を残しての、ご本人も予期されなかった最終章です。

日本人会会報2016年3・4月号に「バッハ巡礼行脚（I）」をご寄稿以来、長きに亘り、ご帰国後も連載を継続していただき、今回に至りました。

今年の4月25日銀座の王子ホールでハイドンをテーマとしたリサイタルをされています。来年のリサイタルへと意欲的に取り組まれ、ハイドンについての研究と執筆を続けておられました。

パリにお住まいの頃、遠くのご自宅から日本人会にはいつも歩いてお越しになりました。そこでさまざまなお話を伺いました。その旺盛な好奇心と行動力、そして音楽への尽きることのない情熱が、山崎先生のお姿でした。編集部



【山崎孝先生略歴】

お茶の水女子大学附属小学校・中学校卒業。
東京芸術大学附属音楽高等学校卒業。東京芸術大学音楽学部卒業。専攻科修了。ドイツ政府給費留学生としてドイツ国立ミュンヘン音楽大学留学。東京芸術大学最優秀賞安宅賞受賞。ヨーロッパ・ピアノ教育者連盟 EuropePianoTeachersAssociationsEPTA賞受賞。

05年9月ハンガリー共和国文化勲章 [ProCultureHungarica] 叙勲。
ロシア共和国国立グリニカ音楽院名誉教授。くらしき作陽大学名誉教授。

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第56回】

みなさまこんにちは。

日本では大雨による災害が続いています。千葉などの都市部に大雨が降り、車が2500台も浸水で動かなくなったと大騒ぎになりました。気候変動もいろいろな形で人災になっています。パリはいかがですか？ 9月に入り新学期も始まり、過ごしやすい気候になったかと思います。季節の変わり目、健康には十分気を付けてくださいな。

さて、今回は私たちの脳が、膨大な現実の情報を「削除・歪曲・一般化」という3つのフィルターを使って、勝手に「編集」しているというお話をしました。

今回は、その「編集された情報が『感情』や『行動』に変わる瞬間」についてお話しします。

私たちは「外の世界の出来事」が「自分の感情」を作っていると考えがちです。しかしながら、感情は外からやってくるのではなく、自分自身が過去の体験から作っているのです。これを理解するために、NLPの重要な概念のひとつである「一次体験」と「二次体験（内部表現）」についてお話ししたいと思います。

一次体験（現実の出来事）：

これは、実際に起きている事実そのものです。例えば、「上司から『明日の朝までにこの資料を作成して』と言われた」という事実です。ここにはまだ感情は存在しません。

二次体験（脳内の意味づけ）：

一次体験（事実）に対して、脳のフィルターを通し、自分なりの「意味」をくっつけて頭の中で再生するプロセスのことです。これを「二次体験」と呼びます。

例えば、先ほどの「明日の朝までにこの資料を作成して」と言われた事実（一次体験）に対して、二人の部下が全く違う反応をしたとします。

【Aさんの場合】

過去に仕事を押し付けられて辛かった経験があるAさんは、この言葉を聞いた瞬間、脳内で「また自分ばかり損をする」「理不尽だ」という意味づけ（二次体験）を行います。その結果、「怒り」や「ストレス」という感情が湧き上がります。

【Bさんの場合】

過去に指示に素早く応えて評価された経験があるBさんは、同じ言葉を聞いても、「自分は期待されている」「ここを乗り切れば成長できる」という意味づけ（二次体験）を行います。その結果、「やる気」や「集中」という状態が生まれます。

出来事（一次体験）は全く同じなのに、生み出される感情が違うのは、それぞれが持っている過去の体験や価値観によって、頭の中で作られる意味づけ（二次体験・内部表現）が違うからなのです。

「感情は、外の出来事ではなく、自分の頭の中の編集（二次体験）から生まれる」。

このことに気がつくと、大きな変化が訪れます。よくない感情が湧き起こったとき、相手のせいや環境のせいにするのではなく、「自分は今、過去のどんな体験と結びつけて、このイライラを作っているのだろう？」と客観視できるようになるからです。自分が作っているものならば、自分でその意味づけを変えることも可能になります。

自分と他人の経験が違うから、受け止め方は違って当然なのです。しかしながら、ほとんどの人はそこに気づかず、「なんであの人はこういう行動をとるんだろう」と自分と違う感覚の人を忌み嫌ってしまうのです。

このことについて私は、以前お話しさせていただいた、私が創設したコーチアプローチファシリテーションのなかの「人間力」のなかでも、自分の価値観に気づき、他人の価値観を認めることの重要性としてお話しさせていただきました。

不愉快な感情、イライラを防ぐには、相手が悪いのではなく、「お互いの頭の中で起こっていること（二次体験）が違うのだ」と気づくことが大切です。

このことを知り実践できることは、人間としての大きな成長となると私は確信しています。いかがでしょうか？

次回は、人によって異なる「認知の得意分野」についてお話しします。「映像」中心なのか、「音」中心なのか、「感覚」中心なのかという、「3つの感覚タイプ（VAK）」についてです。これを知ると、伝わり方が劇的に変わります。どうぞお楽しみに。

大山裕之 コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

【65】

ジャス・ド・ブッフアの壁画とセザンヌ

Paul Cézanne
(1839-1906)

長い大規模な修復工事を終えて、エクサン・プロヴァンスはポール・セザンヌゆかりのBastide du Jas de Bouffanが、やっと2026年7月4日にオープンした。今年のオープン時期は10月31日までである。Bastideとはプロヴァンス風の別荘のことである。

元は1730年、会計監査院委員であったガスパー・トリュフェムのために建設された15ヘクタールの広さをもつ別荘であった。それを1859年、銀行家のルイ＝オーギュスト・セザンヌが購入した。息子のポールは20歳だった。家族はこの家に住み、ポール・セザンヌも約40年間(1859-1899)ここで過ごした。彼は、この家とそれを囲む風景を多く描き、さらに室内の壁画装飾にも痕跡を残している。1902年から亡くなる1906年まで彼が住んだエクサン・プロヴァンス郊外のローブのアトリエとともに、ここはポール・セザンヌの人生にとって非常に重要な場所なのだ。サント・ヴィクトワール山を最初に描いたのは、このジャス・ド・ブッフアの庭からであった。



Bastide du Jas de Bouffan



庭の小道



庭からの館

エクサン・プロヴァンスの町の西側、多くのクルマが行き交うAvenue de l'Europeから少し外れた閑静な住宅街の一角にこのドメヌヌはある。入り口を入ると、木立に囲まれた気持ちの良い小道がセザンヌ家の館へと伸びている。小道の半ばには小さな噴水、所々に佇む彫刻、広い敷地内に茂る木立の葉からこぼれる日差し、そしてセザンヌがブッフアンを描いた絵のパネルが、彼がキャンパスの画架を置いたであろうそれぞれの場所に設置してある。

館の中に入ると、数年間に渡る修復作業によって明らかになった若きセザンヌが描いた壁画がプロジェクションで、当時さながらに映し出されている。セザンヌの父がこのドメヌヌを購入した時、館は数年間空き家の状態であったので、ある程度の改修が必要であった。一階にある応接間は、本来の目的では使われてはおらず物置として使われ、家族は二階に住んだそうである。

それで当時デッサン教室に通い始めていた20歳のポールは、この広い部屋の壁を自由に使って、当時流行していた壁画の習作を描き始めたというわけである。息子ポールが画家になることを強く反対した父は、ポールが家の壁を活用して大胆にも、又ちょっと不器用な筆のタッチで壁画を描くことには、何も文句を言わなかったようだ。

今はオルセー美術館にある作品のいくつかは、この壁に描かれていたのだと思うと感慨深い。

若きポールが描いたこれらの壁画は、その後の所有者たちが屋根などの家の修理費用捻出のために切り抜かれて画商に売却された。9枚あった大きな壁画は、今は22点ほどの作品となり、プチパレ、オルセー美術館、尾道の中田美術館に、また個人コレクションとして大切に所蔵されている。

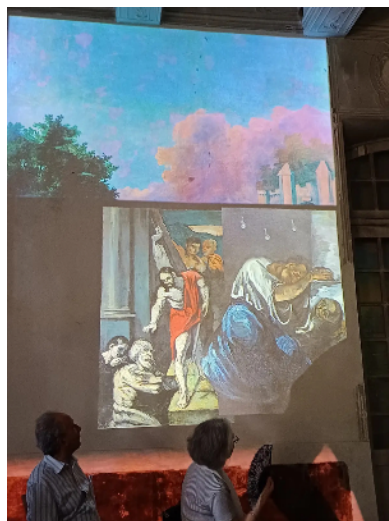
2019年の修復作業は、新たなセザンヌの壁画装飾の変遷が明らかになり、2023年には、約6平方メートルの面積を占める壁画が発見された。



応接間の壁画プロジェクション

未完成の作品で、おそらくセザンヌがこのブッフアンで描いた最初の作品であるとされている。この発見ではセザンヌは具象的な構図だけでなく、それを引き立てる大規模な付随的な装飾も試みているのである。天井近くに花のゲルランドが「四季」を描いた応接間のアルコーヴ(壁の窪み)の上部に描かれていた。それが未完成であることから、もしかしたらポール・セザンヌは応接間の装飾を描きながら、途中で本格的な壁画を描きたくったのではないかと想像を掻き立てる。若いセザンヌの挑戦が見えて、セザンヌがぐっと近くなるブッフアンの館である。

フランス政府公認ガイド
平井 愛子



応接間の壁画プロジェクション

フランス俳句会

白地着て今なほ残る貪瞋痴
パリジャンは肌をさらしてわれ白地
エヴィアンのミスト片手に観覧車
出でる日に薄色の花涼しかり
パリの夏うちにこもりて苦を知らず
仲間と盛る父の若さや白緋
白緋粹に着込んで出かけをり
息子にも着せてやりたし白緋
堪へがたき巴里の酷暑や皆いかに
渇く喉麦酒の時の来たりけり
白緋黒帯きりつとパリ闊歩
白緋袴すがたの君想ふ
ひもとくし母の白地の淡き文
祇園会の稚児行列のおちよぼ口
若き日の祖父の形見の白緋
陽は陰る白緋にて遠き日々

自選句集 163
(入会順)

美佐子 美佐子 茜 茜 佳久子 佳久子 容子 容子 春代 春代 なをみ なをみ 万里 万里 勝義 勝義

日本人会フランス語講座 2026年9月～12月

月		火		水		木		金	
9:45-12:00 A1 1 Laurent	10:00-12:15 入門_2 4 Florence	10:00-12:30 B2+ 5 Muriel	9:45-12:00 A2 10 Laurent	10:00-11:00 発音マスター1 17 Muriel 11:15-12:15 発音マスター2 18 Muriel	9:45-12:00 A2 14 Laurent	9:45-12:00 入門_3 16 Laurent	10:00-12:15 入門_4 24 Florence	9:45-12:00 A1+/A2 30 Laurent	9:45-12:00 B1 20 Muriel
12:30-14:45 入門_1 NEW! 2 Florence		12:30-14:45 A2+ 9 Muriel		13:00-15:15 A1 11 Laurent				13:00-15:15 A1+/A2 35 Muriel	12:30-14:45 入門1 NEW! 31 Laurent
17:15-18:45 DALF C1 6 Muriel		17:15-18:45 DEL F B2 12 Muriel		17:15-18:45 DEL F B1 15 Muriel		17:15-18:45 DEL F A2 19 Muriel			
19:00-20:30 入門_1 NEW! 25 Laurent	19:00-20:30 A1+/A2 7 Muriel	19:00-20:30 入門_1 NEW! 28 Laurent	19:00-20:30 B1/B1+ 33 Muriel	19:00-20:30 入門_3 26 Laurent	19:00-20:30 A1+ 27 Muriel				
								オンライン	日本人会 教室

オンライン

日本人会
教室

日本人会では、9月～12月期のフランス語講座の生徒を募集いたしております。

- ・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。
- ・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。（教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数での効果的学習が可能です。オンライン授業にはTEAMSを使用いたします。）
- ・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。
- ・今期新設のクラス：はじめてフランス語を学習する方向けのクラスを新設いたしました。

■月曜12時30分～14時45分 入門_1（教室クラス） ■月曜19時～20時30分 入門_1（オンラインクラス）

■火曜19時～20時30分 入門_1（オンラインクラス） ■金曜12時30分～14時45分 入門_1（教室クラス）

*入門1のお試し受講は授業進行上の都合から第2回目までとさせていただきます。（その他は残り8回前まで）

- ・DALF対策講座は Muriel NAVARRO講師（DEL F認定官）による試験対策講座です。一般の語学学校では不可能な、日本人が間違えやすい点を徹底指導。非常に高い合格率を誇ります。DEL F/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。
- ・日本人会のフランス語講座は18歳以上が対象です。
- ・お一人2クラスまで体験受講（違うクラスを2つ。同じクラスを2回ということではありません）をしていただけます。/ 日本人会会員でない方も体験受講は可能です。
- ・途中入校も可能ですが（その場合、料金は回数割で15%割増）残り授業数8回以降になりましたら無料体験および途中入校はできませんのでご了承ください。
- ・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。
- ・講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合がございます。
- ・日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限りです。

フランス語レベル目安 は以下の
リンクよりご覧ください。

[https://
zaifutsunihonjinkai.fr/wp-
content/uploads/
2022/06/2022_SEP_niveaux_
francais.pdf](https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf)

日本人の特徴を知り尽くした
講師陣による授業

Mme Florence MEHRVAR
Mme Muriel NAVARRO
M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは
下記リンクよりご覧ください。

[https://
zaifutsunihonjinkai.fr/non-
category/post-81580/](https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-81580/)

問合せ・申込：

Tel. 01 53 76 17 58

coursfr.ajf@gmail.com

目次

補習校だより	1-2	日本の四季のレシピをフランスで	8
第99回全パリ・ソフトボール大会	3	終（つい）のデザインのススメ	9
在仏日本人会2025年度会計報告	3	フランス生活養生訓 第33回	9
パリ日本文化会館事業案内	4-5	ヨーゼフ・ハイドン <12>	10
日本人会「川柳パリ会」	5	グローバル時代のコミュニケーション	10
舞台裏より愛をこめて vol.30	6	場所と人の出会い <65>	11
フランス人物伝 <30>	6	ふらんす俳句会	11
日本人会活動案内	7	日本人会フランス語講座	12
フランス歴史散歩道	8		

日本人会会報 Journal Japon

年6回発行：第51巻5号（通巻321号）

発行人 片川 喜代治

編集人 高橋 幸隆

レイアウト 杉山 清美

発行 在仏日本人会

Association des Japonais en France

(旧) Association amicale des ressortissants japonais
en France

9, Av. Marceau 75116 Paris

TEL: 01-53-76-17-58

月～土 du lundi au samedi 9:30-12:30 /13:30-17:30
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/> contact@nihonjinkai.fr

*サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを

閲覧する際のパスワード：heian2020

*本誌の無断転載を禁じます